



**第29回 全国女性建築士
連絡協議会に参加して
(7月13日～14日東京)**

森田ゆう子 (札幌支部)

最初に、三井所連合会会長から女性委員会が近年掲げている「和」を考える取組は、日本を再認識する重要な意味があり、公共的なものと匠の技術の融合が必要との言葉がありました。

各地からの報告として、岩手県からは盛岡市鈍屋町(なたやちょう)の町屋再生と保存について、秋田県からは県内に6作品残る白井晟一の建築調査・保存・活用についての報告がありました。

被災地報告は、札幌支部の小町美穂さんから「胆振東部地震の報告」があり、発生時から被害の全容が判るまでの詳細な経過報告に薄れかけていた恐怖と教訓が蘇ります。また、北海道建築士会作成の防災マニュアル「守ろう命!!」も好評を頂きました。福島県からは、今も4万人の避難者がいる現状とコミュニティの大切さを、岡山県からは西日本豪雨災害の経験から、「ひとごと」ではなく「わがごと」として捉えてもらう啓発活動について報告がありました。

後半は、有限会社原田左官工業所・原田宗亮氏による基調講演があり、同社では女性が10名も職人として活躍している事に驚きました。

翌日の分科会では「高齢社会と住まい」に参加し、岐阜県建築士会の「福祉まちづくり建築士」の活動から建築士として何が出来るかを考えました。

今回初参加でしたが、改めて女性建築士のパワーを感じる2日間でした。参加の機会を下された皆様、ありがとうございました。



北海道からの参加者

いきものめぐり

佐藤 宜子 (網走支部)

道東Bブロックでは、例年、建築に関わる活動が多かったのですが、今年は建築と自然の関係を考えるきっかけづくりをテーマに「いきものめぐり」を開催しました。

今回訪問した施設は、網走市の能取湖畔にある「水産科学センター」と、網走市と小清水町にまたがる瀧沸湖畔にある「瀧沸湖・水鳥湿地センター」の2施設です。

水産科学センターでは、8月10日～12日の3日間、東京農業大学海洋水産学科の特設展示が行われており、アザラシ等海獣の剥製や骨格標本を見たり、クリガニ釣り体験を楽しんだりしてきました。

クリガニ釣り体験は子ども向けのゲームでしたが、大人の私達も楽しめました。また、来館者がホタテの貝殻に絵を描くコーナーがあり、沢山のホタテ貝に描かれた

絵やメッセージが展示されていました。

今回特設展示を行っていた東京農業大学海洋水産学科は、オホーツクの海・川・湖沼等を研究フィールドとした動植物や漁業生産の研究等が行われています。これらの研究の材料や成果を身近に感じられるのが水産科学センターですが、参加したメンバーには施設を知らなかった方もおり、知名度はまだまだであることを実感しました。今後も建築と自然の融合の観点から、同施設のPRと、更なる地球温暖化対策への意識啓発を図りたいと思いました。

続いて訪れた瀧沸湖・水鳥湿地センターでは、世界的にも重要な渡り鳥の生息地としてラムサール条約に登録された瀧沸湖の成り立ちや、四季折々の風景のVTRを見せていただいたあと、実際に双眼鏡を貸していただいて、ユリカモメやアオサギなどの野鳥を観察しました。訪問時には確認できませんでしたが、天然記念物のオジロワシやタンチョウも見られるそうです。

双眼鏡の向こうでは、水面をついばんで餌を捕る鳥、湖に潜って餌を捕る鳥等があり、同じ鳥でも生き方は様々で、大変興味深かったです。



瀧沸湖の水鳥を観察

私はこの春に大阪から移住してきました。今回の活動で、自然に囲まれたオホーツク地域の素晴らしさを再確認できたので、次は陸上のいきものも見てみたいと思いました。